

【概要版】

第32回 全国育樹祭
基本計画



第32回全国育樹祭愛媛県実行委員会

1 開催趣旨

全国育樹祭は、幅広い国民運動としての国土緑化運動の一環として、活力ある緑の造成気運を高め、次代への連帯性を深めることを目的として開催されています。

豊かな国土の基盤である森林は、木材を生産する場であると同時に生物が生存していくために欠かせない清らかな水と空気を産み出し、多種多様な生態系を育むなど、他をもって替えることのできない多面的かつ公益的な機能を有しています。

また、近年では、地球規模での環境破壊である地球温暖化に繋がる温室効果ガスを森林が効率的に吸収・固定し、地球環境の保全・回復の役割を担うことが期待されています。

このような中、県土の7割を森林が占める愛媛県では、平成13年を「森林そ生元年」と位置付け、森林の有する公益的機能の重要性を改めて認識し感謝をするとともに、これらを私たち県民共有の財産として大切に守り育て、次の世代に健全な森林として継承していくため、「森林と共生する文化」の創造に取り組んでいるところです。

そこで、この取組みを広く全国に向けて発信するとともに、私たち一人一人が森林を守り育て、活力ある健全な森林をつくりあげていくという気運をより一層高めるため、

「育てよう 緑あふれる 日本の未来」を大会のテーマとして、平成20年秋季に「第32回全国育樹祭」を開催します。

2 基本コンセプト

テーマ「循環」

先人が植えた木々は世代を超えて生まれ、森林^{もり}となって現在^{いま}へと受け継がれました。

その森林から、日々恩恵を享受している私たちの手によって、明日^{あした}へと引き継ぐ森林づくりを行います。

(解説)

全国育樹祭は、「親が植え、子が育てる」という育樹運動のシンボリック行事として実施されていますが、愛媛県で開催される第32回全国育樹祭では、昭和41年に昭和天皇・香淳皇后両陛下の行幸を賜り開催した、第17回全国植樹祭で造成された森林を最大限に活用し、両陛下の御皇孫にあたる皇族殿下に行啓を賜り、世代を超えた森づくりを行うほか、「循環」というテーマを具現化するため、成育した木材を育樹祭開催行事に有効利用することとしています。

3 大会テーマ

育てよう 緑あふれる 日本の未来

明神小学校(久万高原町) 佐藤 晴紀 さん

4 大会キャラクター



作者：松山市 池田 正誉 さん

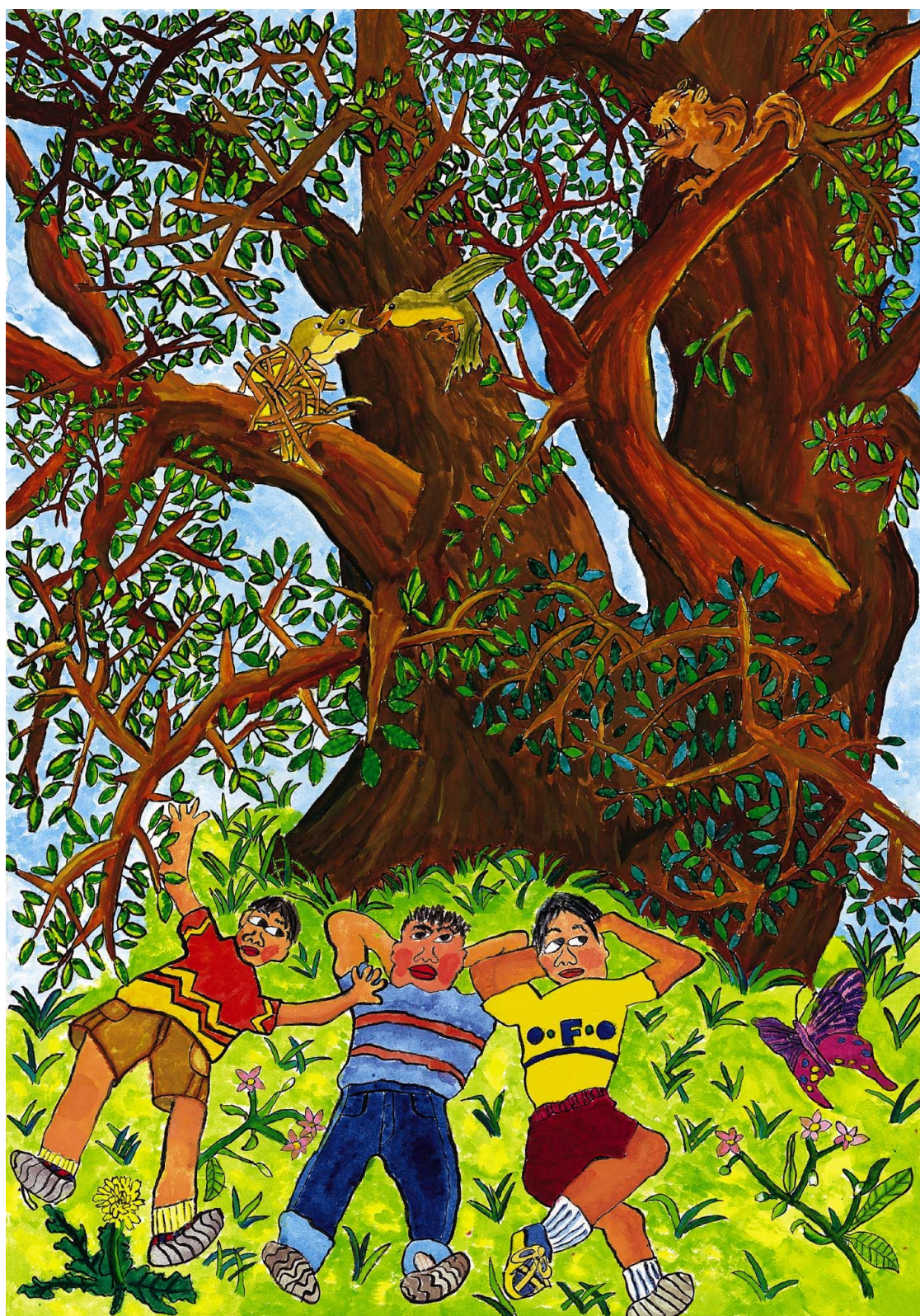
(趣旨)

えひめの森を吹き抜けるさわやかな風、その風に髪をなびかせ森を育む愛媛の子供達”を表現するため、E H I M Eの「E」の文字をモチーフに、明るく元気に森を守り育てる愛媛の子供をイメージしてデザイン化しました。

愛称 『E～もりくん』

松山南高等学校(松山市) 高月 悠馬 さん

5 ポスター原画



画題「緑の中で」

新谷小学校(大洲市) 二宮 楓太 さん

6 大会イメージソング

県政発足百年を記念して昭和48年に制定された「愛媛の歌」は、ふるさとを愛する心を育む歌詞となっており、育樹祭開催の趣旨とも合致しているものであることから、大会のイメージソングとして採用することとし、老朽化した音源を広く県民の参加を得てリメイクするとともに、大会開催までの各種記念行事やイベント等で使用することにより開催気運の醸成を図ることとする。

また、育樹祭本番の式典においても県民の手により演奏することとする。

愛媛の歌

作詞 岩本義孝
作曲 中田喜直

明るく力強くそして美しく ♩ = 108 位



1 うみがある やまがある そらにひかりがあふれてる

2 はながある うたがある あいのこころがさいている



みちがある かわがある いよのことばがながれてる

ゆめがある あすがある あかるいきぼうがそだってる



ふるさとふるさと わがえひめ ゆたかなしぜんが

ふるさとふるさと わがえひめ かがやくぶんかが



あふれてる あついちしおが ながれてる

さいている わかいちからが そだーって る

愛媛の歌

一 海がある 山がある

空にひかりがあふれてる

道がある 川がある

伊予のことばが流れてる

ふるさと ふるさと わが愛媛

ゆたかな自然が あふれてる

あつい血潮が 流れてる

二 花がある 歌がある

愛の心が咲いている

夢がある あすがある

明るい希望が育つてる

ふるさと ふるさと わが愛媛

かがやく文化が 咲いている

若い力が 育つてる

7 開催概要

- (1) 時 期 式 典：平成 20 年 10 月 26 日（日）
 お手入れ行事：平成 20 年 10 月 25 日（土）
- (2) 主 催 社団法人 国土緑化推進機構、愛媛県
- (3) 参集規模 約 3,000 人（式典）

参加者の選考方針

育樹祭の開催を「県民参加の森林づくり」を推進する契機とするため、林業関係者のみならず、一般公募による参加者の募集を行うなど、各界各層から幅広い参加を求めることとする。

参加者の区分・内訳・人数

	区 分	内 訳
参加者総数 約 3,000 人	中央・県外参加者 約 700 人	(社)国土緑化推進機構と 愛媛県知事の協議による者 約 200 人
		各都道府県知事推薦による者 約 500 人
	県内参加者 約 1,500 人	実行委員会の選考による者 約 1,000 人 (内公募による者 約 300 人)
		市町推薦による者 約 500 人
	協力員・出演団体等 約 800 人	協力員(運営スタッフ) 約 300 人
		式典音楽隊 約 100 人
		出演団体(緑の少年団等) 約 400 人

(4) 事業内容

式典等行事

皇族殿下によるお手入れ行事
参加者による育樹活動
緑化功労者等の表彰
緑の少年団活動発表
大会宣言 等

各種行事

併催行事

社団法人 国土緑化推進機構と愛媛県が共催するもの
・全国緑の少年団活動発表大会
・育林技術交流集会

記念行事

実行委員会が主催し、又は共催するもの
・森林・林業・環境機械展示実演会
・森林・環境関係製品展示・販売
・その他の記念行事

関連行事

実行委員会が必要と認めたもの。

8 開催場所

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| (1) お手入れ会場 | 松山市 久谷ふれあい林
(昭和41年第17回全国植樹祭会場) |
| (2) 式典会場 | 松山市「愛媛県武道館」 |
| (3) 荒天会場 | 同上 |
| (4) 育樹会場 | 松山市 久谷ふれあい林 |
| (5) サテライト会場 | 東予会場 (未定)
南予会場 (未定) |

久谷ふれあい林・愛媛県武道館



9 協賛計画

県民との協働による「県民手づくり」の、また、来県される方々を「温かいお接待の心」でお迎えする、愛媛らしい育樹祭の開催を目指すため、企業、団体、個人を対象に、資金や物品・役務の提供、広報・PRへの協力、人的支援・ボランティア等の「協賛参加者」を広く募集する。

10 歓迎レセプション

皇族殿下の御臨席を仰ぎ、大会関係者を招待した歓迎パーティーを開催する。

(1) 主 催

愛媛県

(2) 開 催 日

平成20年10月25日(土)

(3) 開催場所

未定

(4) 参 加 者

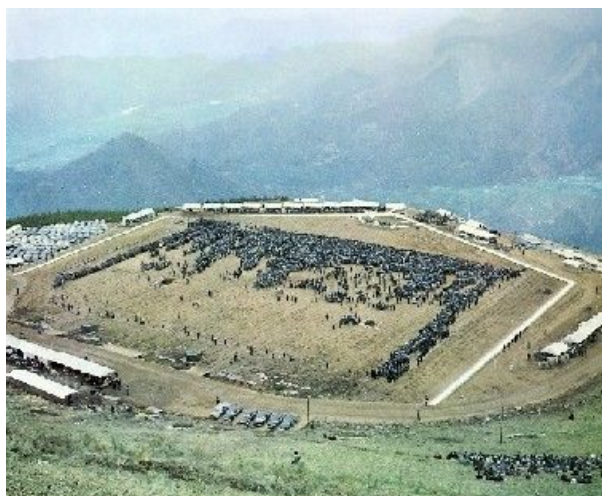
皇族殿下、宮内庁、中央・県内外参加者 約200人

1 第17回(昭和41年)全国植樹祭

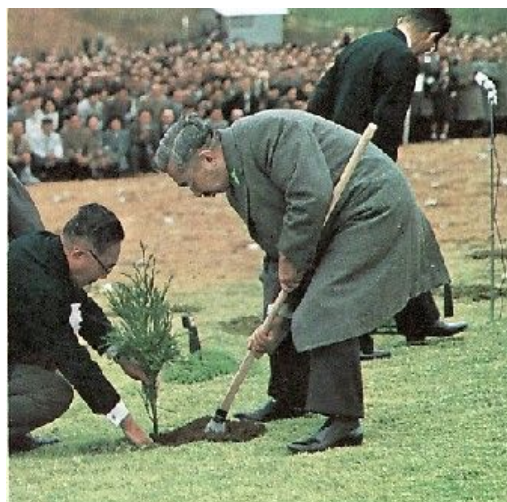
昭和41年4月17日、昭和天皇、香淳皇后両陛下ご臨席のもと、温泉郡久谷村大久保(現:松山市久谷町大久保)にて「第17回全国植樹祭」が開催されました。

この日、愛媛県は急に冷え込み霧雨まじりの天候となりましたが、行事のスローガン「荒れた国土に緑の晴れ着を」という願いを込めて、両陛下によるスギ苗のお手植えとともに約13,000人の参加者により、スギ・ヒノキ苗30,000本の植樹が行われました。

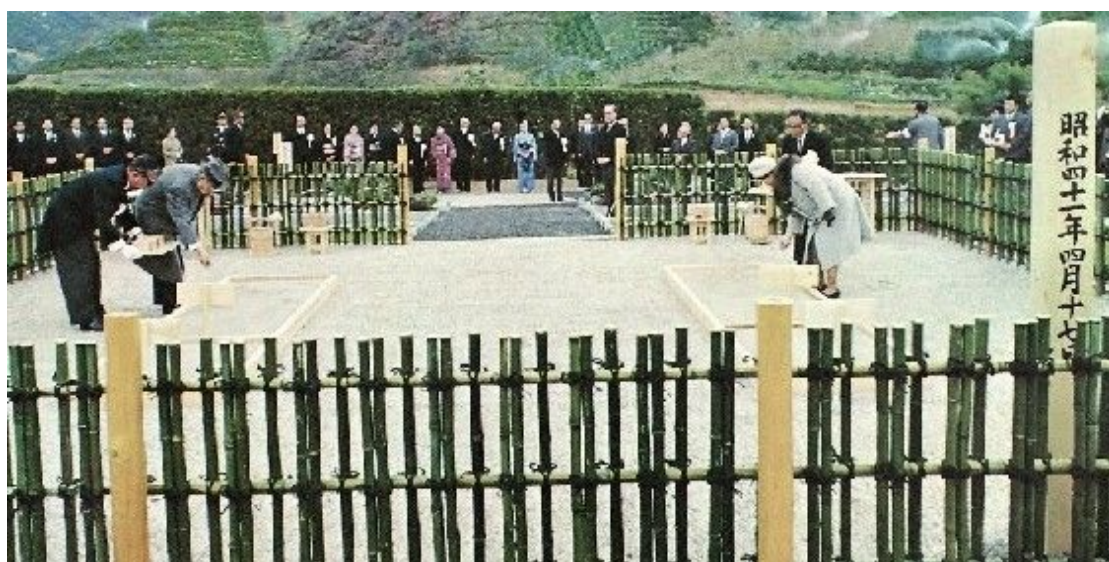
このあと、場所を愛媛県果樹試験場(現:愛媛県研修所、松山市東野町)に移し、スギ・クロマツ・アカマツの種子をお手播きされ、これらの木々は現在も県内各地で大切に守られています。



「第17回植樹祭会場の全景」(現松山市久谷町)



「久松知事の介添えでお手植えになる天皇陛下」



「お手播きされる両陛下」 於: 県立果樹試験場 (現: 愛媛県研修所)

2 お手入れ会場(久谷ふれあい林)の現在

昭和 41 年全国植樹祭の会場は、その後、「久谷ふれあい林」として管理され、現在に至っています。

当時、昭和天皇・皇后両陛下により森の字型に植えられた 6 本の「お手植スギ」は、現在樹齢 40 年を超え、直径約 30cm、樹高約 17m にまで成長しています。



「国道 33 号入口付近(松山市久谷町)」



「現在の久谷ふれあい林」



「入口付近にある石碑」

《御製》

「久谷村を緑にそむる 時をしも

たのしみにして 杉うゑにけり」



「現在のお手植スギ」 向かって左側:天皇陛下お手植え 同右側:皇后陛下お手植え